

## 家庭や学校での実効性を追究して

### 組織で開拓するチームの課題研修

A:校内研修 I 型(日常的に行う研修)

#### こんな先生方の姿が生まれました!

- チーム(デジタル教育部)の教員が学年部の ICT 機器の管理に責任をもち、進んで行動できるようになった。
- チームの教員が「タブレット端末を使って学校と家庭をつなぐことができるか」という課題意識をもち、主体的に ICT 機器の活用・管理や情報モラル教育に取り組むことができた。

#### 管理面におけるチーム(デジタル教育部)の連携

##### 学年部で責任をもって、物品管理や日常点検、情報教育にかかわる指導を行う

- ・教員の組織にデジタル教育部を位置付けた。デジタル教育部は、情報教育主任、教務主任、各学年1名で構成する。
- ・端末の不具合や破損報告等のトラブル対応、管理に関わる見届けや調査等を分担して行う。
- ・学年の情報モラル教育を担当する。
- ・定期的に不要データの削除や不具合の確認を行い、学年の対応窓口となる。



#### 管理面におけるチーム連携のポイント

- 学年の担当教員が、端末管理や情報教育にかかわる現状を把握し、情報教育主任に報告する体制をつくる。
- 全校に指導する際には、情報教育主任の指示のもと、学年の担当教員が担任や生徒へ指示や指導を行う。

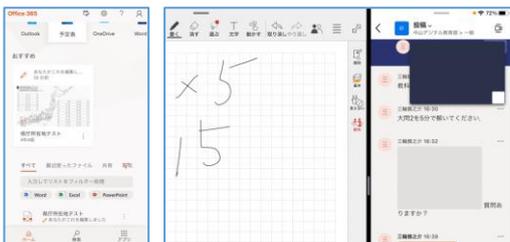
#### 家庭でのオンライン授業の実現に向けた職員チームによる実態調査



##### 家庭 Wi-Fi 環境下における

##### TV 会議システムと各種アプリの利用可能性の検証

- ・市教育委員会の許可の下、試験的にタブレットを校外に持ち出し、教員宅家庭 Wi-Fi 接続環境において生徒役端末の動作を確認した。オンライン配信実施時において発生する問題の把握と、授業で使用するアプリの動作確認を行い、オンライン授業が実用的であるかどうかを検証した。
- ・Teams の TV 会議システムにおいて、送受信側とも映像をオンにすると不安定になることから、参加確認以外は送信側のみの映像配信にすることで接続の安定が保てることを確認できた。
- ・共有するホワイトボード形式のアプリは利用者の通信接続状況によって差が開き、書き込みの時差が大きく生じる、もしくは動作が停止することが確かめられた。また、Microsoft アプリの課題機能が働かないことが確認できた。



#### チームでの検証のポイント

- 市や校内におけるネットワーク環境やアプリの機能などの制限下において、本校で実現できる具体的な指標を明らかにすることができた。